

合格体験記 17

横浜国立大学 経営学部 進学

他の主な合格校： 日本大学 芸術学部

1 志望校決定について

まず、はじめに横浜国立大学に興味を持った理由は、好きなアーティストの出身大学だったから(笑)
1年の時オープンキャンパスで留学制度が充実していること。
センター試験と調査書のみで受験できることを知り志望しました。
(来年度からは二次試験が導入されます)

2 学習計画について

(1) 1、2年次の学習について

1年から目指していたので、成績が必要ということもありテスト2週間前から勉強していました。

2年の7月まではテスト勉強のみ、8月から受験勉強を開始しました。

2年の8月～3月は苦手な数学と古文、英語の暗記を主にしていました。

またこの時期から授業の予習を「授業の直前に、授業中困らない程度」から、「遅くても前日に、授業が必要無いぐらい」までアップデートしました。

(予習の完成度を上げることで、授業中に先生の話の細部まで注意を払う余裕が生まれます)

(2) 計画の立て方

38期の合格報告会の後、「自分が1年後、合格して報告する立場になる」という前提を立てました。そこから「合格のためには比較的得意な英語で満点を取ろう」「そのためには夏休みまでにこの量の英単語を覚えよう」「そのためには今月は1日〇〇個ペースで〇〇周しよう」…という風に、「合格」というゴールを見据えて逆算的に計画を建てました。

また、継続する力がなかったので「勉強を習慣化して、意思がなくても勝手に勉強するようにする」ということを意識しました。

■朝は7時に学校に到着、進路部の先生に勉強しているところを見せつける。

(冬は寒すぎたので自習室に行きました)

■お風呂に入ってる時はVintage、ターゲット

等、モチベが上がらない時も体が勝手に勉強する仕組みを作りました。

休憩は髪を乾かす間の動画視聴、月に1回のカラオケ、と決めました。

自分の実力と志望校との差を考えて、各自で設定してください。

(3) 利用した参考書・問題種、その利用法

英語 ターゲット 1900 Vintage 学校のテキスト 過去問

国語 古文単語帳 教員のプリント 過去問
数学 4プロセス キートレーニング 過去問
社会 教員のプリント
理科 教員のプリント、過去問

(4) 模試の活用方法

毎回の模試を受験本番だと思って臨みました。

「前日から持ち物準備、昼食は受験当日に食べるものと同じもの」等を心がけていました。

そうすることで、いざ本番を迎えた時に「大丈夫。いつも通りだ。」と自分に言い聞かせることができました。

(5) 予備校の活用方法

塾・予備校にはお金がなかったので行けませんでした。センター試験対策は学校の授業、講習で間に合いました。

(6) 部活動・行事・委員会活動・趣味などとの学習の両立

3年の行事はどれも全力で行いました。特に文化祭準備が私のクラスは大変だったので、夏休みはほとんど勉強していません。眠らずに家で作業することもありました。勉強したいのに作業が終わらなくて毎日泣いていました。今となっては良い思い出ですが、仕事はきちんと分担して行事は楽しめるようにしてください。

(7) 後輩へのアドバイス

「月1でカラオケ行ったり、夏休み勉強してなかったり、この人あんまり受験勉強してないんだな。運で受かったんだろうな。」と思われたかもしれません。

しかし、ほぼすべての定期テストでクラス順位1桁キープ、2年の8月から受験勉強を始め、年末年始関係なく勉強し、高校入試の休みに皆が夢の国に行っている間も勉強し…という風に早いうちから勉強していました。

あくまで私が描いたイメージですが、大学受験はベクトルみたいなものだと思います。それぞれ始点が違い、「合格」という終点が違い、そこに進むための方向、長さも違います。受験当日までに終点に辿り着けばいいので、いつ始めてどれくらい頑張るかは人それぞれです。と、数学できる人風に言ってみました。私自身数学は大の苦手でした。

(8) 高校生活全般についての感想・意見・反省

高校受験では57点、最初の数1のテストでは赤点ではないものの31点。

でも、塾や予備校に行けなくても国立大学に受かるくらいには実力を伸ばせます。

結局「諦めたら試合終了」ですね(笑)

(9) 合格した時のこと

私の家はあまり裕福ではなく、学校で使うお金はアルバイトで、受験料は奨学金で賄いました。日大には合格したものの、受験が終わる頃には入学一時金を払うほどのお金が無かったので、横国に落ちていたらアルバイトしながら受験料を貯め、宅浪という未来でした。

そのため、合格した時は喜びももちろんですが安堵の方が大きかったです。

両親に迷惑をかけず受験を終わらせられて本当によかったです。

ムサキタのおかげです。ありがとうございました。